

で進んで居る所の者は、やはり後進に對してはこれを啓發する所の慈愛を有ち、又後進に侮蔑せられないだけの尊嚴を維持する、而して後より進み行く者は先覺者の慈愛に感謝し、先覺者の威徳に尊敬を拂つて行かなければならぬ、これを侮蔑するのは人類の社會を構成する所以ではありませぬ。國家も社會も家庭も皆宇宙の法則律より導かれて居るものである、それに反くのは恰も雨の降るとき戸外へ飛び出すやうなもので、つぶ濡になる、それでも行き居れば終ひには風邪を引く、風邪を引いても構はぬと言つて居れば今度はギャフンと死んでしまふ、死んではモウ「構はぬ」とも言へなくなつてしまふ。宇宙の法則に逆行する文明は破滅に向つて居るのであつて、膺懲の鞭を受ける。その最も明かなるものは露西亞である、彼等は膺懲されて雨に濡れた、それでも構はぬといつて風邪を引いた、その内に段々熱を發して來る、「熱など構ふものか」と言つて居る内に、ギャフンと參つてしまふであらう、今度はモウ物を言はなくなる、それが彼等の末路である、左様な愚な事を真似てはならぬ。故に「見ざるを慎しむ」といふ事を更に大いに國民に徹底せしめなければならぬ。それは宗教を侮蔑することに依つて、この大事な宇宙の法が隠れて來たのである。天則と言つても加藤弘之氏が言つたやうな、唯だ自然科學以下の事よりほかに天則が無いと思つて、天則の語に由つて宗教や哲學を侮蔑するやうな淺薄な誤れる天則が、世の中に蔓こるのが大いなる禍である。

教育勅語はこの點に於て洵に明かな事であつて、「徳を樹つること深厚」と示されたのは、建國以來敬神の觀念があり、「正しきを養ふの心を廣め」と仰せられて、天意を重んじてお出になつて居る。それ故に 先帝は五箇條の御誓文にも「天地の公道ニ基クベシ」と仰せられ、軍人への勅諭にも「天地の公道人倫ノ常經」とお示しになつて居る、その他御製に於ても、天地の公道或は敬神のことを示されたのが多いのであります、今の教育者がこの宗教的氣分を捨て、居るのは、先帝の思召とは大分距離があるやうに思はるのである。それは勅語を文字の上からのみ解釋して綜合觀察を